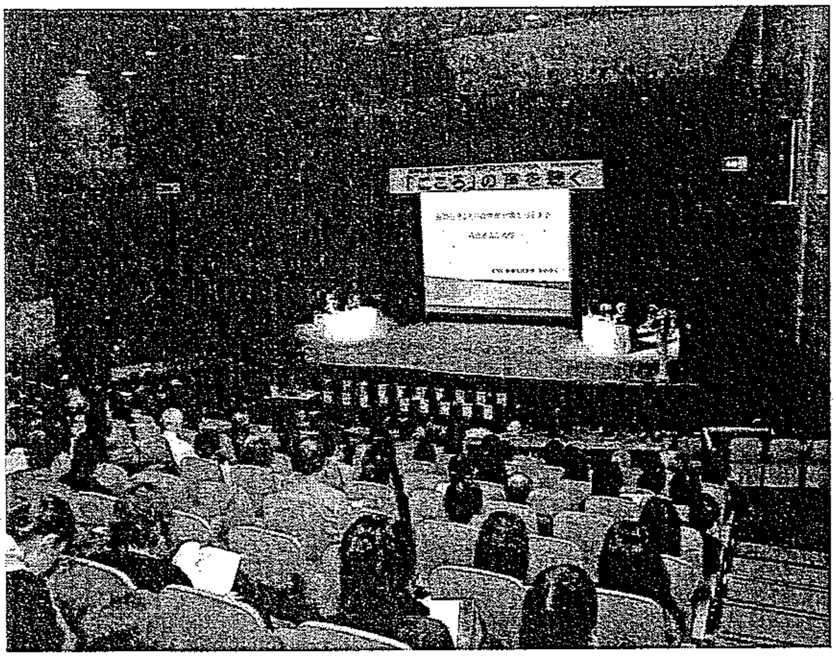
箱庭療法の事例について紹介された
シンポジウム　＝高知市内で



「箱庭療法」シンポ

高知の研究所 開設20周年で

心理療法の一つ「箱庭療法」を用いて相談にあたっている高知市愛宕町1の高知心理療法研究所（高野祥子所長）の開設20周年を記念したシンポジウムが19日、高知市内であった。

箱庭療法は心理療法士が見守る中、砂の入った箱に人間や動植物、乗り物などのミニチュア模型を使って、心に描いたイメージを作ってもらい、その人の悩みを解きほぐしていく方法。

「こころの声を聴く」をテーマにシンポジウムが進められ、臨床心理士で京都大学院の皆藤章教授と京都文教大学院の秋田巌教授がパネリストとして解説した。

高知心理療法研究所が10年以上引きこもりだったという県内男性の事例を紹介。男性は箱庭療法を始めた当初、大地震や怪獣の襲来などによって街が壊される状況を表現していたが、心が回復するにつれて人が働いている姿や道路の上を車が往来する様子などを作るようになったという。

岡山市から訪れたセラピストの女性(52)は「紹介された箱庭療法の事例を聞いて、患者との信頼がしっかり築けていると感じた」と話した。

【黄在龍】